

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	西九州大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ニシキユウシュウダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	九州地方
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	あすなろう体験3(応用実践)
	学部・研究科等名	全学部
	担当教職員名・役職	井本浩之・副学長、リカレント教育・研究推進本部長
要素①	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	9
	受入企業等数	3
	受入企業等名	道の駅さざんか千坊館、大串製菓、株式会社ドラッグストアモリ
	インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ 9. 中小企業でのインターンシップ 10. 地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	【大串製菓の例】 佐賀県が主催する「肥前さが幕末維新博覧会」における集客コンテンツの提案及び実施を行った。佐賀とも深い関わりのあったオランダで一般的に食べられる菓子の風味を、佐賀が輩出した幕末期の偉人の功績や逸話をヒントにアレンジし、大串製菓に提案。博覧会開催中に商品化し販売を行った。
	要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。
2-2.該当するインターンシップの内容		1.当該インターンシップは、教養教育科目として実施している 2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している
2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)		
2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)		3年次
2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)		2単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)		1年次から、サービスラーニング、PBL型のインターンシップを導入。1年次は必修、2年次以上で中長期やPBL型のインターンシップを履修できる体制を整備している。各年次で獲得できる単位は2単位ずつ、最高6単位を卒業単位として獲得可能。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	

	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	成果目標やISの実施目的については、一斉授業において取り扱う。成果目標は自己分析シート等を用いて各自志向性や強み弱みを認識させ設定させる。実施目的については、過去のIS参加者を招きIS参加後の学生生活の変化等について意見交換を行っている。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	ISの研修内容及び研修を通した学びについて全員がプレゼンテーションを行い質疑を受け付ける。なおプレゼンテーションの内容は「意識した社会人基礎力」「当初設定した目標の達成度の振り返り」を含むことを必須としている。また、受入先も同席し実施内容についてのフィードバックを行い、実社会で専門知識を活かすためのアドバイスなどをいただく。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	研修期間中は受入先・学生・教職員による定例協議の場を設け、進捗及び目標の確認を行う。また必要に応じてその後学生と面談を行う。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている 3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	IS参加後はレポートの提出を必須としており、助言教員の返信を以て活動への参加を完了させるシステムを用いている。また、本学独自の社会人基礎力測定テスト(全64問)を用い、学生自身で汎用的能力の伸長について可視化できるようにしている。またIS関係科目を含む全科目において、修得する能力要素を汎用的と専門的に細分化しそれに基づいた評価基準を設けている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	4.その他
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	1ヶ月～1年に及ぶISを実施している。中期(1ヶ月程度)の場合は連続勤務もあるが、長期に及ぶものは月数日の単位で実施している。
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	一例をあげると、幕末偉人をモチーフにした菓子の提案(受入先:大串製菓)では、コンセプト設計及び情報収集、試作提案、商品化、販売、振り返りの5フェーズを約半年で実施をした。プロジェクトの要所で受入先とは協議を行い、その際に提案された課題に取り組むことで商品のブラッシュアップを行った。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとつての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	企業とは受入れ調整のフェーズにおいて、受け入れメリットや学生の到達目標から逆算したプログラム設計を協働して行っている。株式会社ドラッグストアモリの例では、佐賀県主催の野外イベントにおける企業とのコラボブースの出展について、対象学生の専門性を活かしたアウトプット(機能性食品の開発)をメインテーマに据え、専門的知識や座学の応用を目標として取り組んだ。そのプロセスにおいて、企業からはコンセプト設計や原価計算など実務的な課題が出された。

	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	http://er.nisikyu-u.ac.jp /あすなろう1基礎、あすなろう体験2(実践)、あすなろう体験3(応用実践)を検索してください。
問 い 合 わ せ 先	大学等名	西九州大学
	担当部署名	リカレント教育・研究推進本部
	担当者役職名	井本 浩之本部長
	担当者氏名	横尾 仁美
	電話番号	0952-37-9282
	メールアドレス	yokoohit@nisikyu-u.ac.jp